

2026

1

月号

3/15
(日)

「まちづくりフェスタ with」 もうすぐ開催！



「まちづくりフェスタwith」は多様な市民活動を紹介する場、多世代交流・地域交流の場としてすっかりお馴染みになった地域イベント。ここ数年は毎回、まちづくり活動プラザにて開催しています。「次のwithはいつ？」そんな声もよく聞かれるようになりました。今ではキッチンカー出店も定番となり、すっかり地域に定着してきました。

展示+ミニワークショップが楽しい！

メイン会場となる3階では、展示会場を増設して2ヶ所にてブースを設置。各ブースでは活動紹介の展示とともにミニワークショップや活動にまつわるグッズ、手作り品販売なども行われます。小さなお子さんからシニア世代まで、訪れた人たちが楽しめるような工夫がこらされ、合計15の展示団体が来場者とともに2つの会場を活気あふれさせてくれるでしょう。

他にもクラフトを作ったり、体を動かして楽しむさま

ざまなワークショップ、子どもの遊び場、そして飲食コーナーと施設の中も外も 3月15日は「まるごとwithの日」になります。

初めての企業参加！

また、今回は市内2社の参加も決まり、企業との連携が実現することとなりました。地域において人や市民活動団体、企業、行政など多様な主体がゆるやかにつながることは、多くの関係性が生まれるベースとなり、大変意義深いことです。今回の企業参加もそのきっかけになればと思います。

各参加団体が伝えたいこと、提案したいことを持寄って集まれば大きな発信力になります。ひとつの団体だけではできないことも、withに来れば可能になる、そんな場を目指しつつ、来場者も含め全ての人たちが、ともに楽しめる場にしたいと考えています。

※参加32団体は4面に掲載しています。





市民活動 サロン

「生きづらさを抱える子どもたちに寄り添って」



2025年12月11日、まちづくり活動プラザにて、市民活動サロンを開催しました。ゲストに伸栄学習会の青沼隆さんをお迎えし、生きづらさを抱えるこどもたちに寄り添いながら、学習支援や居場所づくりなどさまざまなサポートに取り組む9団体の11名が参加。「生涯喜びをもって学び続ける人間を育てる」ことをミッションに塾を柱としながら事業を多様化させてきた青沼さんのご経験をお話しいただきました。

その後、アウトリーチ（支援や情報を必要としている人のもとへ、こちらから積極的に出向いて関わること）の必要性や、当事者同士の横のつながりの大切さ、現場での工夫によって広がる可能性について、活発な意見交換が行われました。

目の前の課題に取り組む中で 広がっていく支援の形

青沼さんは1980年、猫実に学習塾「伸栄学習会」を創業。その後、塾の生徒の中に発達障害のある子どもが一定数いるのに気付き、学びが必要なのは健常者の子ども達だけではない、障がいのある小中高生にも学習支援を提供したいと考え、放課後等ディサービスを開始。さらに、塾の卒業生に高校を退学したり、不登校になった生徒がいることを知り、通信制高校、フリースクールを設立。また、引きこもりで外に出ることができない子どもたちを支援するために訪問看護ステーションも運営しています。そして学習のみならず障がいのある卒業生の就職・自立のために福祉就労施設や障害者グループホームも開設しました。すべては子どもたちと向き合い、そのニーズに応え続けてきた結果であり、塾を柱に1本でつながった形です。

青沼さんは「塾」とは受験や成績向上など目の前のことだけでなく、もっと長いスパンで子ども一人一人が幸せを実現するために「学ぶ」ことを教える場と考えられています。「子どもたちには日々成長しながら生きていくって欲しい。そのためには学びはとても大切です。学ぶことは生きることです」と語られた言葉が印象的でした。

効率と正解よりも「学ぶ喜び」

「最近の子どもは変わったか」という問いに対し、「変わったのは子どもよりも大人ではないか。大人が余裕を失っている」という声があがりました。本来、学びの原点には「わかった!」「面白い!」と感じる喜びがあります。しかし、効率や成果、コスパ、タイプといった社会の価値観が、そのまま教育の現場にも持ち込まれ、学ぶことがいつの間にか「覚える作業」や「正解を出すための手段」になってはいないか、という問題提起がなされました。

一方で、学びは人と人との関係の中で育つものもあります。たとえば、ある小学校では九九の勉強の際に地域のシニアにドリルの丸つけを協力してもらっていますが、そのことにより、子どもにとって地域の人との交流の機会になり、高齢者は自分の役割を感じることができます。そこには効率では測れない価値があります。

また、保護者は学費を支払う以上、どうしても「結果」を求めがちです。フリースクールや塾は、その期待と現実の間で葛藤を抱えています。だからこそ、「学力とは何か」「幸せに生きる力とは何か」という根源的な問いを、私たち大人自身が改めて問い合わせ直す必

要があるのでないか、そして、大人こそ好奇心を失うことなく学び続けることが大切であるという意見があげられました。

つながることで助け合える地域というセーフティーネット

参加者のみなさんがそれぞれの立場で向き合っている共通の課題として、「孤立」というテーマが浮かび上りました。不登校の子どもや引きこもりの若者、疲弊してしまう保護者、忙しさに追われる学校の教員、そして支援者自身もまた、十分な横のつながりを持てずにいるという現状が語られました。そのことは、文部科学省が2025年10月に公表した最新の調査結果でも小中学校における不登校児童生徒（35万3,970人）のうち、全体の約38%の約11万4,217人が学校内外の機関で相談・指導を受けていない（外部とつながっていない）と報告されています。そのため必要な情報や支援にたどり着けず、孤立が深まっています。一方、同じ悩みを抱えた者同士がつながり、語り合うことで「気持ちを吐き出せた」「肩の荷が下りた」「元気をもらえた」といった声が聞かれるように、問題がすぐに解決しなくとも、誰かとつながるだけで救われることが改めて共通認識されました。

ただ、その対応には行政や学校だけでは限界があります。人的なことはもちろん、対応日時も限定されて

します。それを補うには地域住民や市民活動団体、民間の事業所がつながる場を提供することが必要です。そこで生まれる「つながり」こそが、孤立を防ぐ地域のセーフティーネットとなっていきます。

今回の参加者からも「引きこもりの課題に対するアプローチとして訪問看護ステーションというサービスがあることは知らなかった。自分の団体に持ち帰って共有したい」という声が上がり、支援者同士が情報連携する有意義な機会となりました。

青沼さんは子どもたちに対して、「28歳くらいの時にこうなつたらいい」というイメージを持って接しているとのこと。社会に出て中堅の入り口となる年齢です。目先のことでのせかせかせずに、長期的な視点で見守ることが大切なだと感じました。そうすれば、子どもがいま少しだけ道草したり遠回りしたりすることも、むしろ人生における豊かさだと捉えられるかもしれません。

（市民ライター 西橋友理）



こんな学校にしたい会

フリースクール「小さなイエナ@浦安」を運営。子どもたちの暮らすまちや学校を見直し、子ども時代を幸せな時間にするために活動しています。

URL <https://www.littlejena-urayasu.com/>



新浦安マリンこころの相談室

ひきこもりや不登校傾向の子どもに寄り添いながら、こころと学力を立ち上げ、進学や就労につなげができるよう、家族と未来と一緒にサポートしています。

URL <https://marine-kokorono.com/>



ENJOY CAP

子ども自身があらゆる暴力から自分の心と体を守る教育プログラムを実施。ひとりでも多くの子どもたちに安心、自信、自由を伝えたいと思っています。

URL <https://marine-kokorono.com/>



社会福祉法人 千楽

知的障害や発達障害、引きこもりの方への支援を中心に行なっています。

URL <https://www.chiraku.com>



一般社団法人 スマイルこども食堂浦安

無料または低額で利用できる食堂を運営。お弁当の配布、パソコン教室も実施中。温かい手づくりの食事や交流を通して地域の「環」を紡ぐ役割も担っています。

URL <https://kodomo-shokudo-urayasu.com/>



HSP/HSC!リンクパートナー「Heart Smile Present」

生まれつき「非常に感受性が強く敏感な気質を持つた人」がいることを知ってもらい、個性を認め合う、より生きやすい社会作りを目指して活動しています。

URL <https://hsp.crayonsite.net/>



浦安市「ここからの会」

行き渋り・不登校、ひきこもり、発達障害等の生きづらさを感じている方やそのご家族の「自分らしい生き方の回復」を目標に居場所作りをしている地域家族会です。

URL <https://bit.ly/3YXTLR9>



ルフラン

紙芝居や人形劇、読み聞かせ、手遊びやわらべたなど、アナログではあるけれど普遍的な「あそび」と一緒に楽しみ、子ども達とゆたかな時間を共有しています。

URL <https://kamishibaisan.wordpress.com>



労働者協同組合ワーカーズコープセンター事業団

働く人びとや市民がみんなで出資、経営にもみんなで参加し民主的に事業を運営し、責任を分かち合い、「地域にあってよかった」事業に取り組んでいます。

URL <https://urayasu.roukyou.gr.jp>

センター利用承認の申請について

令和7年度の市民活動センターの利用承認期間が令和8年6月30日に満了となります。引き続き施設のご利用を希望される場合は、利用承認手続きを行ってください。

申請受付：4月15日（水）～
提出締切：5月29日（金）

※提出書類等、詳細はセンターホームページにてご確認ください。※4月15日（水）以降

つなぐプロジェクトをご活用ください

つなぐプロジェクトは市民活動団体と地域活動団体・学校・事業者・行政をつなぐプロジェクト。双方の強みや資源を持ち寄り、連携して事業や活動を行うことで、その効果をさらに高め、地域が活性化し、みんなが笑顔にイキイキと暮らせるまちにすることを目指しています。

イベント・ワークショップ開催、講演会・学習会など、さまざまな場面でご利用ください。



詳細はホームページをご覧ください

URL <https://shiminkc.wixsite.com/tsunagu-project>

団体応援ミニ講座 「Canva活用講座」のご案内

みなさんの活動をサポートするためにさまざまな個別ミニ講座を開催しています。特に好評なのがCanva講座。イベントチラシや資料作りに大変便利です。

実施方法：個別対応
日時はお申し込み時に調整
※1回90分まで
申込：電話、Eメールにて
センターまで

「まちづくりフェスタwith」 参加団体のご紹介



【市民活動団体】

- 特定非営利活動法人あいらんど
- 浦安アクティブシニアコミュニティ+
- 浦安介護予防アカデミア
- うらやすガーデナーズクラブ
- うらやす景観まちづくりフォーラム
- 浦安三番瀬を大切にする会
- 一般社団法人浦安市サッカー協会
- 浦安ドローンラボラトリー
- 浦安ネットラジオちょあへよ.com
- 特定非営利活動法人浦安まちづくりネット
- 浦安水辺の会
- HSP/HSCリンクパートナー「Heart Smile Present」
- NPOスマイルー
- お助けねっと・こんぺいとう
- 境川にこいのぼりを泳がせる会
- 視覚障害者と共に「つむぐ」
- 手工芸のあむあむ
- 新浦安マリンこころの相談室
- スタジオウォーキング
- 一般社団法人スマイルこども食堂浦安
- 全国友の会 浦安方面
- タイの子供たちを支援する会「コーブン・マーク」
- 特定非営利活動法人たすけあいはとっぽ
- チーム530
- ナナメちゃん
- 認定NPO法人発達わんぱく会
- Heartship Myanmar Japan
- パルレ
- ファイバーリサイクルうらやす
- プリズムネクスト
- ReStep
- 労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団
わくわくはっぴ一本棚
(32団体)

【企業】

- 株式会社スター工房
- 株式会社リーガルコーポレーション

【浦安市】

- いちょう学級入船
- うらやす市民大学



センター日誌より

センターの年明け初日は1月4日、日曜日からの仕事始めとなりました。この日は静かな一日になるのかと思いきや、開館すると同時に、団体を立ち上げたばかりの方々数名がノートパソコンや書類の束を手にご来館。聞くと設立を祝う式典の準備をされること。次から次へと配布物の印刷、司会原稿の作成、進行の確認、横断幕印刷など手際よくこなし、朝から夕方まで一日がかりでしたが、とても楽しそうなご様子。この日も大型プリンタ大活躍の日となりました。お役に立てて何よりでした。

問い合わせ・申込みは
市民活動センターまで

発行：浦安市市民活動センター
2026年1月15日（年3回発行）



〒279-8501千葉県浦安市猫実1-1-1(市庁舎10階)

TEL: 047-305-1721 FAX: 047-305-1722

E-mail: shiminkc@jcom.home.ne.jp

URL <https://u-shimin.genki365.net>

